

校長室だより

国立市立国立第七小学校長 森田弘文

平成 29 年 6 月 26 日 NO.10(139)

道徳授業地区公開講座：ご来校・ご参観ありがとうございました！

平成 29 年度道徳授業地区公開講座が多くの保護者・地域の皆様のご参観のもと、6 月 24 日（土）に行われました。公私ご多忙の中、450 名程の方々にご来校いただき心より感謝申し上げます。2・3 時間目には、各クラスで道徳授業が行われました。国立七小の先生たちは、教材研究・教材作りに励み、様々な創意工夫をこらし授業を行いました。アンケート等でご意見・ご感想を頂ければ大変嬉しく思います。

また、4 時間目には講演会も視聴覚室で実施しました。始めに山口直樹教育長職務代理より、来年度より道徳が教科化し教科書を用いて指導していくことや、道徳は人間として生きていくことを考えていく重要な教科であるとのお話がありました。続いて城所久恵教育委員と荒西岳広統括指導主事によりご講演がありました。城所教育委員からは、保護者の立場で教育委員をされ、子育ての経験や悩みを共有していきたいという旨や、荒西先生からは、ご自身も子育ての真っ最中であり、同じ悩みをもつ親として参加していただきました。

まず、荒西先生からは、日々の子育てについて、ご家庭での赤裸々なお話や親として何とかならないかと考えさせられる場面の紹介がありました。次に、城所教育委員より、それらの行動を検証し、親の言葉の裏側にある親の意識や考えを子供は感じてしまうこと。また、親の言葉に不安や恐れが含まれていることが多いのではないかと振り返ってみる必要があること等、親子の関係性について対談形式で行われました。

その後、子供のためにかけてきた言葉について、講演会参加者が小グループに分かれて意見交換を行いました。短い時間でしたが、進んで子育ての課題や悩み、子供への思いを語っていただき、大変盛り上がりのある話し合いができました。話し合い後に、代表でその内容の発表もあり、貴重な情報交換の場となりました。

最後に、城所教育委員より、月に雲がかかっても月自身は何も変わらなくて、見え方が変わってしまっていること。子供について考えると、子供が学校で何かあると、それは雲と同じで、子供が変わっていないのに、見え方が変わってしまっていること。何があってもその子自身の本当の価値は変わらず、雲がかかると雲を取ることばかりに意識がいくってしまうので、子供自身の姿や心を見てあげることの方が大切であるというお話がありました。まずは共感すること。受け止めて一緒にやってみること。そして、理由がわかったら、子供も大人も安心することが多くなり、そばにいて、手をとり一緒に歩いて行くように関わっていければよいのでは、とのご提案がありました。

講演会の結びとして、普段かけている言葉が本当はどこから来ているのかを気付いていきましょう。癖や反射的に子供に投げかけている言葉について気付いてみましょう。各ご家庭様々な状況や課題があっても、皆が悩み苦勞し頑張っています。共に励まし合いながら子育てをしていきましょうというお話でした。

講演会終了後に、学校長より、講師の先生方への感謝の言葉がありました。また、城所教育委員は、保護者の先輩として、希望者とは喜んで面談もしてくれるとのことで、個人的にご相談の機会をもってくれるそうです。なお、終了後には、今回のご講演の草案をメモした城所委員の手書き資料の配布もありました。今回の講演会に参加できなかった方で、ご希望の方はご連絡いただければ、資料を差し上げます。



楽しい水泳指導が始まりました！

プールから、子供達の元気な声が校長室までよく聞こえてきます。国立七小では、梅雨の晴れ間を見つけては、水泳指導を行っています。水に親しむことはとても楽しいことです。しかし、一歩間違えば大きな事故となる危険性もあります。学校では、水泳のきまりを子供たちに一人一人にしっかりと守らせています。そして、子供が自分にあった今年のめあてをきちんと定め、より泳力を伸ばすたくましく丈夫な体を作って欲しいと願っています。

なお、持ち物の記名や検温を忘れずお願いします。押印もれはプールに入ることはできませんのでご承知下さい。